



ap bank fes '09
environmental report

環境 報告書

ap bank fes '09

2009年7月18日(土)、19日(日)、20日(月・祝)
eco-reso+(plus)前夜祭 7月17日(金)
ヤマハリゾート つま恋(静岡県掛川市)

主催: ap bank
企画・制作: ap bank / OORONG-SHA

www.eco-reso.jp
www.apbank-ecoreso.jp
www.apbank.jp

©2009 ap bank Co. Ltd., All Right Reserved

ap bank fesは、音楽を通じて環境問題をより身近に感じられる場として、また、さまざまな取り組みの実践の場として始まった、ap bank 主催の野外音楽イベントです。毎回、新たな環境への取り組みを積極的に取り入れてきたap bank fesですが、5回目となる今回は「原点回帰」をテーマに、これまでの取り組みを検証し、改めてなにを行うかを選びました。この環境報告書では、そうして行うに至った取り組みの内容とその成果、そして当イベントの実績および収支の報告を行います。多くの方のご賛同とご協力により実現しているさまざまな取り組みの報告を是非ご覧ください。

ap bank fes '09 environmental report 環境 報告書

目次

page	contents
02	はじめに
03	ap bankとは ap bank fesとは
04	食べること ----- オーガニックフードの取り組み
06	買うこと ----- koti market 雑貨～選んで買うこと～
08	ごみのこと ----- リユース食器 マイ箸・マイカトラリー、マイ食器
10	ごみのこと ----- ごみの分別とそのゆくえ
12	ごみのこと ----- ごみのゆくえレポート
14	知ること ----- eco-reso talk
16	楽しんで学ぶこと ---- ワークショップ キッズエリアpuu
18	楽しんで学ぶこと ---- eco-reso+(plus)前夜祭 eco-reso camp
19	買うこと ----- オフィシャルグッズ
20	イベントの仕組み ---- ステージ緑化 エネルギー
22	お金のこと ----- 収支報告
23	公演実施概要
24	おわりに



ステージ緑化
ステージ上にグリーンが出現!
P20

eco-reso booth
ミニトークや来場者が参加できる
ワークショップが盛りだくさん!
P16

eco-reso camp
自然の中で寝起きするって
気持ちいい!
P18

キッズエリア puu
ap bank fes '09初登場のキッズエリアは
ゆるやかな芝生の広がる心地よいエリア。
ファミリーで楽しめるおたのしみいっぱい!
P17

オフィシャルグッズ売り場
こだわりのオフィシャルグッズの
販売はこちら。
P19

**ペットボトルの圧縮
@think waste**
分別回収したペットボトルを
ここで圧縮してキューブ状に。
P10

eco-reso talk
環境に関するさまざまな
トピックスについて、ゲストを
交えたトークを展開。
P14

カトラリースタンド
ap bank fes '09ではカトラリーの無料
提供を廃止。マイ箸・マイカトラリーを
忘れた方はこちらで購入。
P09

**オーガニックフードエリア
koti/piha**
環境にもからだにもやさしい食べ物を提供するエリア。
ap bank fes '09ではその取り組みを
来場者に分かりやすくお伝えする
「食長くん」も登場!
P04

リユース食器洗浄ブース
ボランティアスタッフによる
リユース食器の洗浄はこちら。
P08

エコステーション
会場に出たごみを
ここで11項目に分別回収。
ボランティアスタッフによるナビゲートで
分別もスムーズ!
P10

koti market/雑貨
環境配慮型の雑貨を販売するブースがならぶ
エリア。息生の上でゆったりと音楽を楽しむ
koti market live!
P06

ごみの計量
エコステーションで分別回収したごみを、
それぞれどれだけ出たのか、
ここで計量。
P10

マイ食器洗浄所
来場者が持参したマイ箸・マイカトラリーや
マイ食器は、使用後ここできれいに洗浄。
P09

バイオディーゼル発電機
会場内で度々見かけるこの四角い箱。
実はバイオディーゼルの使った
電気を作る発電機です。
P21

はじめに

ap bank fesは5回目を迎え、「原点回帰」として、とても気持ちが入った3日間(前夜祭、もっと言えばリハーサルからですが)を、やり終えることができました。

前にフェスサイトでも報告した通り、そこで得た収益は、今まで通り「融資」という形で使わせてもらっているのと、「明日ラボ」を通して、もう一步踏み込んだ形で投資、出資、そして事業を自らオーガナイズすることも含めて、という新たな展開も始まっています。

その中で、いよいよ「農」や「食」のことで、今年からスタートを切るプロジェクトもあります。

また大きな意味でのコンセプトとして「ラブチェック」という新たな取り組みも始まろうとしています。「ラブチェック」のコンセプトに基づいた、いくつかの活動を明日ラボが支えていくというようなことも起こって行くと思います。言葉にしようとしたSF映画みたいですが、具体的には地に足のついた、人に思いや形あるものを伝えて、広がっていくことで成果を生むものになると思っています。

具体的なことに関しては、エコレゾ ウェブ (www.eco-reso.jp) でレポートを続けていきたいと思っています。

今後のap bankの取り組みに興味を持ってもらえるよう頑張っていきたいと思っています。

2010年 1月

ap bank 代表理事 小林 武史

【 ap bank とは 】

ap bankは、環境をはじめとするさまざまなプロジェクトの支援や推進を行う非営利組織です。

音楽プロデューサー小林武史と、Mr.Childrenの櫻井和寿の2名に、坂本龍一氏を加えた3名が自己責任において拠出した資金をもとに、2003年に設立されました。ap bankの「ap」は「Artists' Power」のAP、そして「Alternative Power」のAPでもあります。

環境などに関するさまざまなプロジェクトへの融資をはじめとした支援のほか、「eco-reso(エコレゾ、eco resonanceの略)=無理なくポジティブなエコ意識を共振させていこう」という思いのもと、いろいろな活動を行ってきました。

「快適で環境にもよい未来に向けた暮らし」を実践する場、「kurkku(クルック)」のコンセプトプロデュースや、ap bank基金を通じた寄付も、そのひとつです。また、音楽を通じて環境への意識を共振、実感する場として、「ap bank fes」などのイベントを開催しています。これらap bankが主催するイベントの収益は、ap bankの活動資金、環境をはじめとするさまざまなプロジェクトの支援や推進のための資金となります。

「食」や「農」などでも新たなプロジェクトがスタートします。これからも、ap bankはさらに活動の幅を広げていきます。

www.apbank.jp

【 ap bank fes とは 】

ap bank fesは、音楽を気持ちのよい場所で楽しみながら、環境問題をより身近に、より前向きに考えることができる場として、また、さまざまな取り組みの実践の場として始まりました。

ライブステージでは、小林武史、櫻井和寿を中心に結成されたハウスバンド「Bank Band」とゲストミュージシャンたちとの競演、オーガニックフードエリアでは、環境にも体にもやさしい食事、環境に配慮した商品の販売、トークショーやワークショップなどを来場者に楽しんでいただきながら、eco-resoを感じていただける空間づくりを心がけています。

これまでap bank fesでは、環境負荷の少ないエネルギーを部分的に導入するほか、ごみの削減とともに再利用を促進する分別回収を徹底して行うなど、さまざまな環境への取り組みを積極的に取り入れ、実践してきました。

5回目を迎えたap bank fes '09では、「原点回帰」をテーマに、これまでの取り組みについて「なぜ、それを行うのか」を検証し、改めて「なにを行うか」を選びなおしました。

なお、このイベントの収益は、ap bankの活動資金、環境をはじめとするさまざまなプロジェクトの支援や推進のための資金となります。

>>過去の動員実績

ap bank fes '05 6万人 (2005年7月16日～18日)

ap bank fes '06 7万5000人 (2006年7月15日～17日)

ap bank fes '07 2万7000人 (2007年7月16日、台風のため1日のみの開催)

ap bank fes '08 8万1000人 (2008年7月19日～21日)

www.eco-reso.jp

コティマーケット
koti market

雑貨～選んで買うこと～

私たちの多くは、毎日必要なものを「買うこと」で手に入れ、生活しています。そんな普段何気なく行う買い物の前に、あなたが手に取った商品について、少し考えをめぐらせてみましょう。それが作られるために、誰かが不当な労働を強いられてはいませんか、誰かが農業に苦しんではいませんか。また、不要となった時に資源としてリサイクルできるものでしょうか。

koti marketにはフェアトレードの商品や職人による手作りの品、環境にやさしい雑貨などを販売する店舗が並びました。店舗ではつねに出店者と来場者が気軽にコミュニケーションを取れる距離感にあり、そこで売られている商品はどのような人に、どのように作られたのか、出店者はなぜその商品を広める活動をしているのかなどを、会話のなかから伝えていくことができました。

消費は経済に直結し、世界と繋がっています。それぞれの商品にまつわるストーリーやそこに込められた思いを知り、自ら意志を持って選んで「買うこと」。そうした自分の行動で、世界のどこかに小さいながらもポジティブなインパクトを与えることができるかもしれません。そんなことを感じながら、気持ちよく買い物を楽しんでいただけるエリアとなりました。

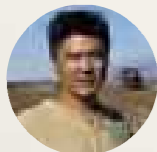


雑貨店一覧(全28店舗)

出店名	取り扱い商品例
Chahat	オリジナルのハンプボール、ビレッジレザーバッグ、Tシャツなど
Sipilica	ハンドメイドのアクセサリー、服飾雑貨など
ubdy(ウブディ)	手づくりの木製スプーン、フォーク、お皿など
帽子専門店Sign	オーガニックコットンや古着のリメイクなどで作る帽子専門店
ぐらすーつ	フェアトレード、エコロジー、オーガニックがキーワードのセレクト商品
ネバリ・バザーロ(フェアトレード団体)	ネパールから届くフェアトレード雑貨、食品など
クラフトリンク南風	バンララデシュとネパールから届いた手作りのフェアトレード雑貨
フェアトレードショップ サウスウインド	オリジナルコーヒーECO・BLACKほか、フェアトレード商品全般
FHCYアジア障害者パートナーズ	タイ国南部地方の障害者による手作り雑貨など
スローウォーターカフェ*	フェアトレード&オーガニック
セレンディバア 아일랜드*	ココナッツ石鹸、ノニ石鹸など
地雷原を緑畑に～Nature Saves Cambodia!～*	オーガニックコットンの伝統手工芸品
天然雑貨屋ヒノデカ二商店	オリジナル木箱、木製の器、オーガニックハーブ石けんなど
honobono号	“カリバ楽器と鼻笛”&“オーガニック お風呂セット”など
愛犬のエコショップわんのはな	Tシャツと虫よけスプレーや竹タオル、愛犬の無添加おやつなど
ボディクレイ	粘土を使ったスキンケア製品
ロゴナ・セミンツ / ココウェル	ロゴナ、ファファラなどのナチュラルコスメとココナッツ製品
ワイルドツリー	ピュアミツロウキャンドルとオーガニックナチュラルコスメ
メイド・イン・アース ～純オーガニックコットン製品と布ナプキン～*	素肌に心地よいタオル、Tシャツ、布ナプキンなど
株式会社 ナファ生活研究所	竹繊維でできた布ナプキン、Tシャツなど
Silk Saves the Earth*	ゴールドシルクを使った製品
エコマーケット	楽しく快適なエコを提案するインテリア、雑貨
murmur magazine / FRAME WORK	エコ・カルチャー雑誌murmur magazine、オーガニックコットンTシャツなど
ReEarth	エコセレクトショップ。リメイクアクセ、WWFグッズなど
Renature & ひのご家	ハンプを使った服飾、雑貨など
HIMALAYAN MATERIAL	ヒマラヤンハンプの手織み製品
(株)益久染織研究所(自然の布館)	和紡布によるキッチンクロス、タオルなどの生活雑貨
Botanic Green	葉草を含む色んな植物の葉っぱで染めた若葉による緑色染

(*ap bank融資先)

スタッフコメント



雑貨出店
メイド・イン・アース
前田 剛さん

こんにちは。オーガニックコットン100%素材の製品を作っているメイド・イン・アースです。ap bank fesは、2005年の初回からずっと出店させていただき、女性用の布ナプキンでは、ap bankの融資もいただいています。メイド・イン・アースは、年間たくさんのイベントに出店していますが、その中でも、とても楽しいイベントのひとつです。それは、空があって、音楽があって、そして、私たちが目指している、カラダとココロ、地球環境を大切にしてく意識をしっかりと持っている人が、たくさん集まってくるイベントだと感じるから。音楽ライブを聞きにきて、布ナプキンをたくさん買ってゆく女性や、お土産に友人たちに布ナプキン買って行くよ!!という男性ってなかなかないことだと思う。そんなうれしくビックリさせてくれることが毎年増えるところが、ap bank fesに毎年出店したくなる理由だと思っています。

koti marketの楽しみ方

メインゲートを入ってすぐのkoti marketには、会場内でもひと際ゆったりとした時間が流れています。ライブエリアで思いきり盛り上がることもフェスの楽しみですが、青空の下、芝生の上で自分のペースで過ごすひとときもまたap bank fesが提案する楽しみ方のひとつです。

ゆるやかな芝生の斜面が広がるエリアの中心には、koti market live【1】の小さなステージが立ち、気持ちよく音楽を楽しむことができます。この丘に心地よい風が吹けば、色とりどりの旗【2】がはためき、風車がぐるぐる回り回ります。風船職人による地球型の巨大バルーン【3】などの装飾も、フェス気分を盛り上げます。大人気なのは、カラフルなハンモック【4】! 青空の下、ハンモックに横たわると、時間が経つのを忘れてしまいそうです。ジリジリと照りつける真夏の太陽で火照ってしまった体は、ミストシャワー【5】で潤しましょう。もちろん、koti marketという名前の通り、環境にやさしい雑貨を売る店舗が市場のようにずらりと並び、ゆつくりと買い物を楽しめます。飲食店舗もこのエリアに新たに加わり、腹ごしらえもばっちり。そして、芝生を裸足で走り回ったり、寝転んだり、思いおみの過ごし方で楽しめます。夜はミツバチの巣の原料の蜜蝋から作ったキャンドル【6】でライトアップされ、幻想的な雰囲気にも包まれます。

koti marketには、こうしたのびのびとした時間の流れや自然とのつながりを感じていただける空間が広がりました。



【1】GAKU-MCセ
ナオインテリアも!



【1】さまでまよアーティストが
出演したkoti market live



【2】色とりどりの旗



【3】koti marketに浮かんだ
地球のバルーン



【4】大人気ハンモック



【5】ミストシャワー



【6】自然とのつながりを感じられる
ミツロウキャンドル

スタッフコメント



koti market
制作運営 / 出店管理
アースガーデン
中村 真葉美さん

青い空、緑の芝生、吹き抜ける風。思わず裸足になって、深呼吸したくなるようなあの丘で、たくさんの物語が詰まっている”もの”と、たくさんの想いを抱いて、それを手渡しに来た”ひと”に出逢える場を。その出逢いを通して、普段の生活の中で”自分にできること”を見つけれらる、きっかけをつくれたら。そんな想いで、私たちの仲間である出店者の方々、たくさんのスタッフと共に、あの空間を手づくりしました。fesが終わって、いつもの自分に戻ったとき、何ができるのだろうか。ふとそんなことを思いついたら、あの日、あの場所に並んでいた雑貨たちを、思い出してみてください。あの場所に集っていたお店を、同じような想いでやっているお店を、ぜひ訪ねてみてください。そこにはきっと、答えがあるはずです。

ap bank fesでは、イベントの開催によって排出されるごみの抑制／分別／リサイクルを徹底しています。循環型社会を形成するための取り組みとして提案されている、「3R」の考え方、

なるべくごみを出さない
【Reduce(リデュース)】

一度使った物を捨てずに、繰り返し使う
【Reuse(リユース)】

使わなくなったものは、資源として再生利用する
【Recycle(リサイクル)】

をもとに、イベントで出てしまうごみについて、環境負荷の軽減を目的としたさまざまな取り組みを行ってきました。これらの取り組みは、決して事務局だけでできるものではなく、賛同いただいた企業や団体による協力、また来場者や出店者など一人ひとりの実際のアクションによって成り立っています。

リユース食器

～Reduce、Reuseの取り組み～

ごみを減らす取り組みのひとつとして、ap bank fesでは、イベントで使用する食器にリユース食器を導入しています。お皿やコップを繰り返し使用して、紙皿や紙コップのごみを出しません。

ap bank fesでは初開催時からリユースカップの推奨をスタートし、回を重ねるごとに少しずつリユース食器の導入割合を増やしてきました。4回目の08年には、同規模の野外イベントでは初の試みとして、イベント期間中を通してリユース食器の全面導入に挑戦。使用済み食器を回収して洗浄、再び使用できるように運営するボランティアスタッフをはじめとする多くの方の協力によって、無事に達成することができました。5回目となる今回は、リユース食器の全面導入は引き続き行いつつ、来場者自身のアクションへのシフトを目指し、マイ食器(P09)の持参を推奨。リユース食器とマイ食器、来場者がどちらを使うかを考えて選択していただけるようにしました。

リユース食器の仕組み ～Reuseの取り組み～

ap bank fes '09のために、全国からたくさんの方のリユース食器が集められました。会場に集められたリユース食器は、各出店店舗に必要枚数が貸し出されます。食事や飲み物はリユース食器で提供され、使用後は来場者によってエコステーションに返却されます。集められた使用済みリユース食器はボランティアスタッフによって洗浄され、ふたたび飲食店舗に届けられ、使用されます。こうして、リユース食器の仕組みはたくさんの方々の協力によって実現しています。イベント終了後、全国から集められたリユース食器は、それぞれの地に帰ります。



photo by GENTARO

実績

リユース食器をイベント会場で運営するには、そのために洗浄機を導入するなど皆さんのエネルギーを消費することも事実です。そのようなエネルギー負荷を減らす試みとして、今回は、できるだけ会場内で洗浄をしなくても運営できるよう、リユースディッシュについては全使用想定数を算出し、10万枚以上を用意して会場内での洗浄を控えました。リユースカップについては、前回同様、会場内で洗浄し繰り返し使用しました。会場内のリユース食器洗浄ブースでは、ボランティアスタッフによるリユースカップの洗浄が行われ、1つのカップを1.5回分使用することができました。また、リユース食器の紛失率については、前回に比べ改善されましたが、紛失してしまったリユース食器がまだまだありました。みんなで使用しているリユース食器を繰り返し使うためには、使用する一人ひとりの心がけが大切です。



■ ap bank fes '09 リユース食器導入実績

	リユースディッシュ	リユースカップ
利用個数(総数)	110,515枚	68,424個
回転率*	(会場内での洗浄をしていないため算出していません)	1.5回
紛失個数	1,260枚(全体の1.1%)	2,326個(全体の3.4%)

*1個のリユース食器を期間中に何回使用したか

スタッフコメント



リユース食器運営管理
 A SEED JAPAN
 ごみゼロナビゲーション
 濱中 聡史さん

「ap bank fesで発生するごみを、がつんと減らしたい。」という想いで使用を続けているリユース食器。今年はお皿とカップをあわせて、約18万個もの使い捨て食器を削減することができました。今年の新しい挑戦は、マイ食器の持参を呼びかけたこと、はじめての呼びかけだったのにも関わらず、多くの来場者の方々が、自分なりのマイ食器を飲食出店の方に手渡す姿には、びっくりしました。一人ひとりのアクションの積み重ねが、ap bank fesでも日常生活でも大切だと思っています。「マイ食器片手にイベントへ」という姿が一般的になるのも、近い将来かもしれません。あの暑い会場で活動していたボランティアスタッフのみんなの力もap bank fesに不可欠でした。ap bank fesは、みんなの協力を集めて作るフェスティバルだと思います。参加してくれた来場者、ボランティア、スタッフのみなさん、全ての人に、ありがとう。

マイ箸・マイカトラリー、マイ食器

～Reduce、Recycleの取り組み～

来場者一人ひとりが実感でき、かつ日常でも実践できる取り組みとして、これまでも呼びかけていたマイ箸・マイカトラリー(スプーン、フォーク)の持参。ap bank fes '09ではそこからもう一歩踏み込み、マイ箸・マイカトラリーの持参を「必須」とし、持参率100%を目指しました。

前回まで行っていた飲食店でのわりばしや使い捨てカトラリーの無料提供を廃止し、持参しなかった方には、会場内に設置したカトラリースタンドで、間伐材でできたわりばしやカトラリーを1つ50円で購入していただく仕組みに。そうすることで、前回412kgだったわりばしやカトラリーのごみが、今回はなんと、131kgに1大幅に削減することができました。この131kgの使用済みわりばしやカトラリーごみは、洗浄・破砕し、燃料チップとして再利用されます。普段からマイ箸を使っている方だけではなく、このイベントを機にマイ箸を購入した方、「持つてはいたけど実際にはなかなか使えなかったのでもいいきっかけになった」と嬉しそうに話す方、さまざまですが、実に多くの来場者がマイ箸を持参してくださいました。



マイ食器の洗い方

マイ食器洗浄所で来場者実践していただいた洗い方。日常でも気軽に取り入れられるアクションです。



また、今回はマイ食器(マイカップ、マイディッシュ)についても持参を呼びかけました。マイ食器を繰り返し使っていただけるよう、会場内に「マイ食器洗浄所」を設け、さらに洗い方にもひと工夫。食器についた食べ物汚れを「洗う前に古布で拭き取る」アクションを体験していただきました。この1アクションが、食器を洗い流す際に出る排水の汚染軽減(※1)や節水にも大きく貢献するのです。

※1 水質汚染の大きな原因となっているのが「生活排水」。なかでも、負荷が大きいのが調味料や油が含まれる台所からの排水だと言われています。

古布は、ap bank 融資先の株式会社ウインローダーならびに花嫁わた株式会社のご協力により、不要になった布製品を回収したものを使用しました。

会場内には、「マイ箸・マイカトラリー撮影隊」が登場し、マイ箸・マイカトラリーと共にap bank fes '09を楽しむ皆さんのスナップ写真を撮影しました。お気に入りと一緒に、皆さん素敵な笑顔です!



ごみの分別とそのゆくえ

～Recycleの取り組み～

どうしても出てしまうごみも、きちんと分別回収すれば貴重な「資源」になります。ap bank fesでは、ごみをできるだけ多く資源として再生利用できるよう、過去の実績を見直し、その時々に適した分別項目や回収・リサイクル方法を設定、実践してきました。一口にごみのリサイクルと言っても、地域循環型の仕組みや、いま需要が高いものに再生させる新しい技術など、多様な方法があります。そんなさまざまな方法のなかから、今回のごみの分別項目とリサイクル方法を検討し、14分別(来場者 11分別、出店者・運営 + 3分別)としました。

具体的には、マイ食器洗浄所で使用した古布(P11)を回収するために分別項目を前回より1つ増やしました。また、前回の分別項目で「きれいな紙」「きれいなプラスチック」という基準が曖昧だった項目について、表現をより明確なものに改善し、より多くのごみを資源として回収することができました。リサイクル委託先については、運搬にかかるエネルギー負荷を考慮して、前回同様、なるべく会場に近い所を選びました。



photo by GENTARO

ap bank fes '09 ごみの14分別とそのゆくえ

●来場者／出店者／運営から排出されたごみ(11分別)

分別項目	排出量	処理方法	再生物	リサイクル委託先
1 ペットボトル	3419kg	▶ケミカルリサイクルで分子レベルに分解し、ポリエステル原料に	▶ポリエステル製品(繊維)	帝人株式会社
2 ペットボトルのキャップ	277kg	▶洗浄・破砕し、ふたたびペットに	▶プラスチック製品	株式会社エコネコ
3 ペットボトルのラベル、プラスチック(食べ物の汚れがついていないもの)	949kg	▶分解し、紙や木材と混ぜさせ固形燃料に	▶RPF(固形燃料)	株式会社エコネコ
4 缶、金属キャップなど	430kg	▶素材ごとに溶解し、再び鋼材へ	▶缶・金属製品	株式会社エコネコ
5 紙(食べ物の汚れがついていないもの)	70kg	▶溶解してパルプと混合し、パルプ原料に	▶再生紙	市栄産業株式会社
6 わりばし、スプーン・フォーク、串(木、竹のもののみ)	131kg	▶洗浄・破砕し、燃料資源へ	▶燃料チップ	ヤマカ株式会社
7 生ごみ	3084kg	▶水分と養分を調整し、飼料化	▶ぶたの飼料	有限会社ひがしぐるま
8 危険物	10kg	▶それぞれの製品ごとに分別し、適正に処理	-	-
9 布(食べ物の汚れ拭き取り古布の回収専用)	81kg	▶リサイクルできません(燃えるごみとして処理)	-	-
10 燃えるごみ	2785kg	▶リサイクルできません	-	-
11 燃えないごみ	1726kg	▶リサイクルできません	-	-

●出店者／運営からのみ排出されたごみ(+ 3分別)

分別項目	排出量	処理方法	再生物	リサイクル委託先
12 ダンボール	5274kg	▶溶解してパルプと混合し、パルプ原料に	▶再生紙	株式会社市川商店
13 ピン	810kg	▶素材ごとに分別・破砕し、カレットに	▶ピン・ガラス製品	株式会社エコネコ
14 廃食油	154kg	▶精製し、バイオディーゼル燃料へ	▶BDF燃料	株式会社セック

A SEED JAPANごみゼロナビゲーション

会場では、国際青年環境NGO A SEED JAPANのコーディネートのもと、総勢411人のボランティアスタッフが、ap bank fes '09における環境への取り組みを支えてくださいました。その活動は、エコステーションでのごみの分別ナビゲーション、リユース食器の運営、古々米ごみ袋(P11)の配布など、多岐にわたります。また、会場内のリユース食器洗浄ブースでは、来場者参加型の企画「エコアクションキャンペーン」として、選択クイズ形式で環境問題について学べる「エコチョイスキャンペーン」と、リユース食器の洗浄を体験できる「カップジャブジャブツアー」を開催。ap bank fesの取り組みやボランティアスタッフの活動に興味を持ってくださった来場者に、食器のリユースシステムを支える裏側を体験していただきました。



photo by GENTARO

キューブ状になったペットボトル

ap bank fes '09で、分別回収されたペットボトルごみは3,419kg。来場者の手によってキャップとラベルを取り除かれた使用済みペットボトルは、運搬時にかかるエネルギーや環境負荷を軽減するために、会場内の「think waste」ブースでキューブ状に圧縮、減容されています。ブースでは、実際に機械を使った圧縮作業やキューブ状になったペットボトルが積み上げられていく様子を間近で見ることができました。また、今回は多くの来場者がマイボトルやマイカップを持参してくださったことで、前回と比べて約800kgものペットボトルごみを減らすことができました。



photo by GENTARO

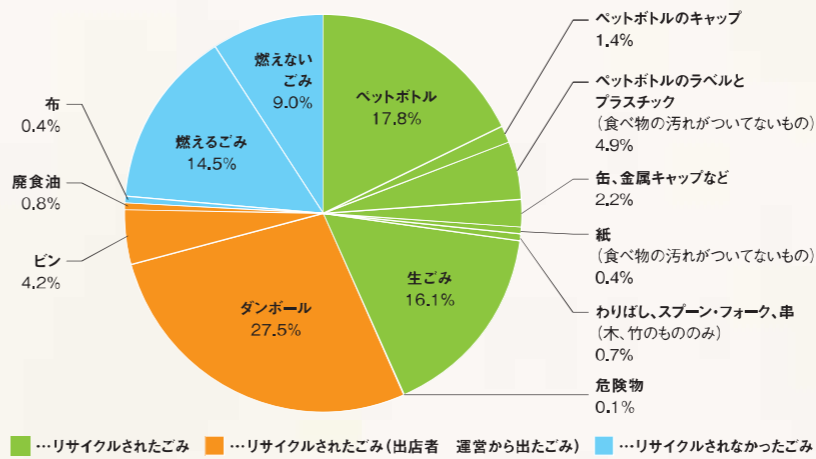


ap bank fes '09 実績

ap bank fesのごみの分別項目やリサイクル方法は、開催毎に都度、その時に適切と考えるものを選択しているため、毎回同じというわけではありません。また、来場者数や出店店舗数、飲食店が取り扱う食材、天候など、条件が毎回異なるため、実績の数値だけを見てこれまでの実績と比較することはできません。とはいえ、ap bank fes '09では、来場者数や出店店舗数が過去最大にもかかわらず、前回に比べおよそ1トン(1,000kg)ものごみを削減することができました。これは、マイ箸・マイカトラリーの持参に代表されるような、ごみにならないものを選んだりなるべくごみを出さないよう工夫したりといった、来場者や出店者一人ひとりの「Reduce」「Reuse」のアクションの積み重ねの結果と考えられます。

ごみの総量	19,200kg (前年比:1,050kg DOWN)
リサイクル率	76.1% (前年比:2.7% DOWN)
来場者1人あたりのごみの量	148.1g (前年比:17.1g DOWN)

イベントで出たごみの割合



スタッフコメント



ごみ対策運営

A SEED JAPAN
ごみゼロナビゲーション
善木 大介さん

イベントを創り上げるのには来場者の「参加」が不可欠です。「ごみ」の取り組みも来場者が自分でエコステーションに足を運び、分別することで初めて成り立ちます。今年のごみの分別辞典を作って分別をより一層明確にし、来場者や出店者により分かりやすくナビゲートするようにしました。幸いにも来場者の方々も協力的な上、5回目の開催ということもあり、来場者にとってもスタッフにとってもようやく定着してきたと思っています。また、エコステーションが分別するための場だけでなく、ボランティアと来場者との大切なコミュニケーションの場になりつつあると感じます。ちょっとした何気ない会話から、新しい発見や、協力の気持ちが生まれる。そんな「分別以上の場所」になっているのではないのでしょうか。それもこれも、暑い中自発的に活動してくれた総勢411名のボランティアのみなさんがいてこそ、本当に感謝です。

お米からつくられたごみ袋

会場をきれいに保つための携帯用ごみ袋として、また、ライブの合間にちょっと休憩する際の簡易レジャーシートとしても活用していただけるように、会場でお米の香ばしい匂いのするごみ袋を配布しました。これは、古くなった備蓄米など、さまざまな理由で食用に適さなくなり捨てられてしまっていた「古々米」を原料の一部として使用した「バイオマスプラスチック」で作られています。燃焼カロリーが低いため焼却炉にも優しく、有毒ガスの発生もありません。また、通常使用されているポリエチレンのごみ袋と比べて、CO₂の発生量を30%削減できるとのこと。近年食べ物から資源を作るバイオマス技術が進む一方で、食糧不足に悩まされている国がまだまだたくさんあります。その点、このごみ袋は「食用に適さない」お米を有効活用したバイオマスプラスチックで出来ているので、地球にも人にもやさしいのです。



photo by GENTARO

ごみの分別辞典

ごみの分別項目や回収方法は、住んでいる地域によってさまざまです。全国各地から訪れる来場者や出店者が、普段と異なったごみの分別回収方法にも混乱しないよう、ap bank fes '09の会場ではどんなごみがどの分別項目にあたるのかを具体的な例とともにまとめた「ごみの分別辞典」を作成し、来場者のごみの分別をナビゲートするボランティアスタッフや、出店者に配布しました。分別に迷った際に参照していただき、合計14項目にわたるごみの分別作業がよりスムーズになりました。

ごみの計量

ap bank fesでは、分別回収されたごみをそれぞれの項目ごとに計量、リアルタイムで公表しています。こうした計算により、大規模なイベントを開催することで排出されるごみの量を具体的に認識し、これをもとに、今回の分別項目やリサイクル方法が適正であったかなどの検証を行います。さらに今回は、各店舗ごとにごみの計量を実施し、どのような店舗からどんなごみが出ているのかを調べ、より細かい検証が可能になりました。また、この結果を各出店店舗にフィードバックし、イベントとしてはもちろん、店舗自身が通常営業のなかでも今後取り組んで行くべき課題を明確にするための資料として役立てていただけます。「なるべくごみを出さない」仕組みを考えるヒントが、この「計量」という作業に詰まっているのです。



photo by GENTARO

掛川駅周辺のごみ拾い

会場内はもちろんのこと、会場の外も同様にごみのないきれいな状態でイベントを終了できるよう、ap bank fesでは、会場最寄りの掛川駅周辺のごみ拾いを行っています。07年よりNPO法人 green birdの協力のもとで始まり、来場者や地元の方に積極的に参加していただいている取り組みです。今回も、イベント期間中と終了翌日の計4日間、毎朝、事務局とgreen bird、地元掛川のNPO法人掛川若者支援会のみなさんを中心に、各日約20人、イベント終了翌日にはBank Bandでコーラスを務める登坂亮さんも参加して約40人もの方々と一緒に、お世話になった掛川に感謝の気持ちを込めてごみ拾いを行いました。ごみを拾いながら歩いていると、さっき会ったばかりの人ともいつのまにか会話が弾みます。2度目や3度目の参加というリピーターの方が多くいらしたという嬉しい発見も。会場の外でもeco-resoを実感出来る取り組みとなりました。



ごみのゆくえレポート

～Recycleの取り組み～

ap bank fes '09で分別回収されたごみのうち、資源として再生利用されたのは、**14,608kg**。

これらが、**どこでどうリサイクルされたのか**、そのゆくえをレポートします。



ペットボトルのリサイクル

今回のイベントで、約3トン(3,000kg)の使用済みペットボトルが集められました。

これらは、帝人株式会社(以後、テイジンと表記)が世界で初めて開発したケミカルリサイクル技術を核とする循環型リサイクルシステム「エコサークル®」によって、ポリエステル繊維に生まれ変わりました。



圧縮されてキューブ状になったペットボトル
photo by GENTARO

運搬にかかるエネルギーを軽減するために会場内でキューブ状に圧縮(P11)されたペットボトルは、会場にほど近い菊川市の株式会社リサイクルエイトの工場で見学、破碎されたのち、愛媛県松山市にあるテイジンの工場に運ばれました。ここでは、ペットボトルや衣類といったさまざまなポリエステルのケミカルリサイクルをしています。

ケミカルリサイクルとは、回収した素材を化学反応によって純度の高い原料に戻す技術のこと。原料に再生することが可能なため、たとえば、古紙がトイレットペーパーになるようなマテリアルリサイクル(※1)の課題だった、リサイクルを繰り返すたびに素材が劣化する(これをダウンリサイクルともいいます)のを回避し、同じ素材を何度でも繰り返し使用することができます。



化学処理で抽出されたポリエステル原料(DMT)

回収され、洗浄・破碎処理を経て工場に運ばれたフレーク状のペットボトルは、化学処理を施され分子レベルにまで分解、再結合し、純度の高いポリエステル原料(DMT)として抽出されます。このDMTから繊維を作り、衣類やユニフォーム、インテリア製品などのポリエステル製品に生まれ変わります。テイジンの「エコサークル®」技術を使って作られたDMTは、石油から作られるものに比べてエネルギー消費量、CO₂排出量ともに約80%削減することが示されており(※2)、環境負荷の低減にも大きく貢献しています。さらに、このリサイクル工程で出る不純物は、熱源および増粘剤としてセメントの原料に活用されています。



DMTからつくられた繊維



松山にある帝人工場

※1 マテリアルリサイクル…使用済みの資源を材料として新しい製品として再生し、使用すること。
※2 出典:繊維製品3R委員会(経済産業省)で報告された「繊維製品のLCA調査報告書」。CO₂排出量は焼却分を加味した場合。
「エコサークル®」は、帝人ファイバー株式会社の登録商標です。

【ペットボトルリサイクルの歴史】

ペットボトルは、その持ち運びやすさや、流通過程での輸送コストやエネルギーの削減にも役立つことから、急速に普及しました。生活が便利になる一方で捨てられるごみの量も増え、ごみの埋立地不足や処分費用の増大が問題となり、使い捨てられていたペットボトルなどの資源の有効活用を図ることを目的に、1995年に容器包装リサイクル法(容リ法)が制定されました。廃棄物のうち、容器包装を資源として再生利用することを定め、消費者・自治体・事業者の三者おのの責任分担を明確にし、廃棄物の減少に取り組んでいこうとするものです。使用済みペットボトルのリサイクルはこの容リ法に沿って行われます。各自治体が回収し入札制度によってリサイクル業者に安価に割り振られていましたが、その後中国をはじめとする海外での需要が急増し独自ルートで有償取引されるようになると、使用済みペットボトルの価値が高騰し、入手困難な状況に陥ります。これによって国内での円滑な再商品化に支障をきたすようになります。しかし、2008年の世界的な不況を受け、一時急増した使用済みペットボトルの需要が激減。価値が急落し、それまで大量に行われていた海外への輸出がされなくなりました。それにより、行き場のなくなった使用済みペットボトルが国内で在庫過多の状態になるというように、使用済みペットボトルをめぐる状況は刻々と変化しています。

一方で、使用済みペットボトルのリサイクル方法については、主にマテリアルリサイクルされ、多くの使用済みペットボトルが繊維やプラスチック製品へと生まれ変わっています。しかしマテリアルリサイクルされた原料(再生PETペレット)は品質が劣化してしまうため、飲料用ペットボトルに再生することができません。そこで、ケミカルリサイクル技術を使うことで、使用済みペットボトルから飲料用ペットボトルに再生することが可能になりました。ap bank fes '09のペットボトルリサイクルにご協力いただいた帝人株式会社では、このケミカルリサイクル技術を使って使用済みペットボトルから新たなペットボトル樹脂を再生する「ボトル to ボトル®」リサイクルを展開してきました。しかし、原料となる使用済みペットボトルの価値が激変し、安定確保が困難な状況になったことにより、ペットボトルのケミカルリサイクル「ボトル to ボトル®」を休止し、より付加価値の高いポリエステル繊維へのリサイクルに転向を図っています。ごみだったものを資源として再生する取り組みはさまざまな方法で行われていますが、市場価値の変化やリサイクル技術の進歩にあわせて、なるべく多く必要とされるものに効果的に生まれ変わらせる方法を、その都度検討することも大切です。

ペットボトルのラベル、プラスチック(食べ物の汚れがついていないもの)のリサイクル



ap bank fes '09で回収したプラスチックごみの一部

会場で回収されたプラスチックごみは、前回同様、静岡県富士宮市の株式会社エコネコルに運ばれ、固形燃料のRPF(Refused Plastic and Paper Fuel)に生まれ変わりました。

RPFは、石油や石炭などの化石燃料と比べて、燃焼時に排出するCO₂の量が約33%少ないと言われています。また、燃焼後に出る灰の量も石炭に比べておよそ1/3なので、埋め立て処分場の延命にもつながり、環境に優しい燃料として注目を集めています。そのような点から、枯渇が懸念される化石燃料の代替品として、近年精油工場や製紙工場などのボイラー助燃材としてのニーズが高まっています。ap bank fes '09では、資源をより有効的に活用するために、こうした需要が高いものに再生させる方法を選択しました。

会場では、ペットボトルをボトル本体、ラベル、キャップの3つに分け、それぞれ分別回収。また、前回の「きれいなプラスチック」という主観的であった表現を「食べ物の汚れがついていないプラスチック(※1)」と変更、回収できるものを明確にすることで、燃えないごみではなく資源として回収できるプラスチックごみが増えました。



(株)エコネコルにはさまざまなところから大量にプラスチックごみが集められます



この大きな機械でRPFの原料を混ぜ込んでいきます

スタッフコメント



ごみ対策処理管理
レコテック株式会社
野崎 衛さん

5回目となるap bank fesの環境対策にみなさんと共に取り組むことができ大変うれしく思っています。今年も解りやすく、共感できて、それぞれが役割を感じるような仕組みにできればと思い取り組みました。普段行っている対策というルールを守らない人に対しどのように対処するかを考える「防衛策」です。でも、このフェスはちがいます。今年さらに強く感じました。来場者、出店者、スタッフなど全てがそのレベルではなく、その先に何かあって、どうすればよりよい未来があるのかを考えるという段階に進化しています。何万という人と共鳴してすごいエネルギーを感じることができました。このフェスのエネルギーやごみまじり食などの環境配慮への取り組みはどんどん進化しています。しかしまだまだこれからです。負荷の絶対数を小さくして行く必要があります。本当に難しいことですが、みなさんと取り組んで行ければと思っています。



ドーナツ型の機械の外側にはたくさんの小さな穴が空いていて、そこからRPFが押し出されてきます。

エコネコルの工場はとても広い工業団地内に、選別施設ごとにわかれて点在しています。「ゼロ・エミッション(=廃棄物ゼロ、リサイクル率の向上)」を目指し、建築廃材や工場から出る金属スクラップ、OA機器、家電製品に含まれる希少金属やプラスチック廃材、使用済み自動車などを丁寧に解体、細かな選別を行

い、それらをリサイクル原料として利用しています。ここには毎日さまざまなものが大量に集められます。プラスチックごみだけでも、その量は1日になんと約40t。回収されたプラスチックごみは、まず細かく破碎した後に、磁気選別にかけ、混入している鉄くずなどを取り除きます。それから風力選別、比重選別、粒度選別、渦電流選別といった、さまざまな選別工程を踏んでいき、最終的には人の手によるチェックが入り、純度の高い素材だけを抽出します。もちろん、選別の過程で取り除かれた鉄くずや紙ごみなども、それぞれ資源として再利用されます。この不純物が取り除かれたPE(ポリエチレン)やPP(ポリプロピレン)といったプラスチックごみがRPFの原料になります。100℃前後の



これがRPFです

熱を加えて溶かしながら、選別工程で出た紙くずや繊維くずを練り込んでいきます。そして専用の機械で押し出すと、小さな円柱のチップが出てきます。こうして出来たのがRPFです。エコネコルの軸となる事業は「破碎・選別」だと、担当の佐々木さんは言います。純度の高いリサイクル原料

は、再利用される用途の幅が広がり、すなわち価値のある原料とみなされます。限りある資源を有効に利用するためには、エコネコルで行われるようにさまざまな方法で選別することによって純度の高いリサイクル原料を取り出し、ごみだったものを価値のあるものとして扱えるようにすることが非常に大切です。取材の際に工場を目にしたものは、大きな機械で実に緻密な選別作業が行われていることと、最終的には人の手による選別が必要になるということでした。会場で来場者や出店者のみなさんに行っていた細かい分別が、このような作業の負担を軽減することに繋がっています。日常生活において、私たち自身が少し気をつけて、リサイクルしやすい状態にごみを出すことは、リサイクルにかかるエネルギー負荷を減らす大きな力となります。

※1=食べ物の汚れがプラスチックに付着していると、食糧残さが腐敗することによる異臭やガスが発生し、そのガスがたまって爆発する危険性があるため、リサイクルには適さなくなってしまいます。

エコレゾトーク

eco-reso talk

環境に関するさまざまなテーマについて有識者の方々と小林武史がトークショーを行いました。

本や新聞で読むと堅苦しくてわかりづらいことも、有識者の方々の話をその場でじかに聞いてみると、すんなりと心に入ってくるから不思議です。

環境問題に関しては、さまざまな意見や考え方があります。

多くの声に耳を傾け、多様な考え方を「知ること」で、見識を広め、「自分はどうか考え、なにをしたらいいか」を考えるきっかけになったら、と思います。

7/17 (fri) eco-reso+(plus)

テーマ「環境問題全般」

M C: ケン・マサイ
ゲスト: 枝廣淳子(環境ジャーナリスト)
テリー伊藤(演出家)
森 撰(雑誌「オルタナ」編集長)
小林武史

アメリカのグリーンニューディール政策を見てみると、自然エネルギーの中でも風力に力を入れています。なぜかという理由をあちらのNGOの人に訊いたら、風力は太陽光などに比べると雇用できる人の数が多いから、と。だから単にCO₂とか温暖化対策だけではなく、**雇用や経済をどうするといったことをきめて考えている**のでしょう。(枝廣淳子さん)

要するに環境だけじゃないんですよ。アフリカ・アジアの貧困問題、それから教育の問題、**全部が繋がっている**わけです。たとえば温暖化の問題がありますが、温暖化の問題だけやっていればいいのかというと、決してそんなことはない。(森 撰さん)

「中国なんかダメだ」という声が圧倒的に多いじゃないですか。でも、実際はそうではない。オーガニックの農産物が全体に占める割合は日本ではなんと**0.16%**なんですね。中国は**0.4%**、まあちょっとだけ高いたけなだけで、あの国の規模を考えたら凄いことなんです。日本は環境先進国だとみなさんは思ってるかもしれないし、まあ僕もそう思いたいんだけど、**実際は結構ヤバイ状況**にあるんじゃないかな。(森 撰さん)

ちょっと難しい言葉ですが、私がよく最近言うのが「**幸せの脱貨幣化**」ということ。大体みなさんの幸せのうち、何%くらいがお金を使ってるの幸せなのか。たとえばお花を買ったとか、どこかへ行くとか、いいものを食べるとか、お金を介した幸せのパーセントというのが、今は結構高い人が多いですね。でも、そこまで高くなくてもいいかもしれない。セロにする必要はないけど、たとえば自然の中で、きれいなお花を見て美しいと思ったり、隣の人とちょっと挨拶をして気持ちよくなったり、そういうことでも十分幸せって作られて行きませよ。だって**幸せはお金で買うものではなくて**、お金も必要だけど、お金を介さない幸せの割合を増やして行くというのが大事だし、今、それをいるんな形でやりはじめている人が多いような気がしますね。(枝廣淳子さん)

自分で考えることは非常に大事ですね。特に環境の問題について言うと、答えがないものが多い。で、答えがないものについては、なかなか**答えが書けない**わけですよ。だからこそ面白い。(森 撰さん)

食べ物だったら、自分で食べる楽しみもあるし。それで実際に育てはじめると、**毎日天気予報を気にする**ようになってくるんですね。すぐ自然と密着して来ますよね。(テリー伊藤さん)

今、すでに86の自治体市町村が、自分たちの家庭用の電力は全部その地域の自然エネルギーでまかなえるようになっているんですよ。風が吹くところは風力、温泉が湧いているところは地熱、山が豊かなところはバイオマス、それぞれ地域にある自然エネルギーを使って、自分たちの家庭用の電力は全部地域の自然エネルギーでまかなっている。そういう自治体が86も日本にあるって、すごいと思うんですね。(枝廣淳子さん)

(日本の自給率アップの話について) バイクンクよくやるけれど、実はみんな最後まで食べないですよ。いっぱい取ってきて、最後は残しちゃ。日本人の意識の中に**欲張りみたいな意識**があって、そういうところを自分の中で抑えて行かないとダメなんじゃないかと思ったりもするんです。(テリー伊藤さん)

スピードと合理性の中だけのルールじゃなくて、**僕らがこうやって命を授かったことと自分が本当に奇跡的なこと**の合わせ技で、積み重ねで、すごいことだし、それをもうちょっとみんなが楽しめるという、そういう社会が出来ればいい。本当の正しい答えを僕が知っているわけじゃないけれども、もう少しコンパクトになって、僕らの中での循環みたいなことを提えて行けるんじゃないかと思っているんですね。(小林武史)

若い人にどうやってエコを感じてもらえるかという、エコの知識を持ってると**異性にモテるとかね**。エコ的な行動をとると「あの人は素敵人です」と言ってもらえとかさ、やっぱり自分に何かメリットがないと、なかなかしないような気がするの。(テリー伊藤さん)

今は、一方に安いもの、でも環境によくない可能性が高いものがある。で、環境にいいものを選ぶと今は高くなってしま。でも、**環境にいい、地球にいい、社会にいいものが高くて、環境に悪い、地球に悪い、社会に悪いものが安い**というのが、**そもそもおかしいと思いませんか?**(枝廣淳子さん)

国民とか市民とか消費者が文句を言わないとなかなか企業は変わらない。今、ようやくそういうものが大事だということで、企業もちゃんとホームページなどで意見を受け付けはじめたじゃないですか。だから**もっと声を出すべし**だと思うんですね。(森 撰さん)

「自分で考える」って言いやすいですね。(テリー伊藤さん)

「いいことをやろう」じゃなくて、本音で**どういうふうにしていくか**だと、僕は思っているんですね。(小林武史)

これまでのガチガチの日本の農業行政をいっぺんに大きく変えるのは難しいと思うんです。ただ、こういうことを考えるときにいつも思うんですが、ベルリンの壁が倒れたのも**最初はちっちゃな穴**だったんですね。きっとあちこちに小さな循環を作る人たちが増えてきている。街と農村を繋いで農協を通さずに直接農作物を買ったり作ってもらったり、そういうのをどんどん広げていくことですよね。きっとね。(枝廣淳子さん)

出来るか出来ないか分かりません。でも、**出来ると思ってる方が多い**。明日は今日の延長線上なのが、それともまた違った明日が来るのか。よりいい明日が来ると思ってた方が、人も楽しいし、会社も楽しいし、自分も楽しいんじゃないかと。(森 撰さん)

「スウェーデンがなぜ進んでいるか」という話がありましたが、人々がそういう行動をするようにきちんと政策をしたんですね。一番大きいのが税金です。エネルギーに税金をかけて二酸化炭素をたくさん出すものは高くなった。なので、石炭とか石油って元々はそんなに高くないけれども、エネルギー税とCO₂税で下駄を履かせて、そうすると**自然エネルギーの方が見たところ安くなる**んですね。(枝廣淳子さん)

つづきは「エコレゾ ウェブ」へ

エコレゾウェブ

ap bankから生まれたウェブサイト、「エコレゾ ウェブ」に、全ての回のeco-reso talk全文が掲載されています。興味深い話がいっぱい！是非ご覧ください。その他にも、小林武史によるフェスの回想録や、Bank Bandメンバーによるライブレポートなど、盛りだくさんの内容です。つづきは「エコレゾ ウェブ」へ。

<http://www.eco-reso.jp/>

eco-reso talk トーク一覧

7/17 (fri) eco-reso+(plus)

テーマ「環境問題全般」

M C: ケン・マサイ
ゲスト: 枝廣淳子(環境ジャーナリスト)
テリー伊藤(演出家)
森 撰(雑誌「オルタナ」編集長)
小林武史

7/18 (sat)

テーマ「食と農」

M C: GAKU-MC
ゲスト: 枝廣淳子(環境ジャーナリスト)
西辻一真(株式会社マイファーム)
小林武史
豊増洋希(ap bankスタッフ)

テーマ「植林」

M C: 高柳恭子(TOKYO FMアナウンサー)
ゲスト: 枝廣淳子(環境ジャーナリスト)
大串卓矢(地球環境問題専門家)
田中優(環境活動家)
箭内道彦(クリエイティブディレクター)
小林武史

7/19 (sun)

テーマ「ごみ」

M C: 高柳恭子(TOKYO FMアナウンサー)
ゲスト: 野崎衛(レコテック株式会社)
羽仁カンタ(環境オーガナイザー)
小林武史

テーマ「食と農」

M C: GAKU-MC
ゲスト: 枝廣淳子(環境ジャーナリスト)
末松広行(農林水産省)
小林武史

7/20 (mon)

テーマ「エネルギー」

M C: 高柳恭子(TOKYO FMアナウンサー)
ゲスト: 枝廣淳子(環境ジャーナリスト)
江守正多(気象学者)
田中優(環境活動家)
小林武史

テーマ「食と農」

M C: ケン・マサイ
ゲスト: 枝廣淳子(環境ジャーナリスト)
流谷 剛(株式会社ろのわ)
東野翠れん(写真家)
小林武史

ワークショップ

楽しみながら感じたことや学んだことは、頭で考えたことよりも、実感として心に残ります。ap bank fes '09では、「楽しむこと」でさまざまなことを感じて学んでいただけるよう、オーガニックフードエリアpihaのeco-reso boothとキッズエリアpuuにてワークショップやミニトークなどを開催しました。

参加者は、捨ててしまうはずだったものや自然の恵みを利用してものを作ったり、専門家の話を聞いたり、フィールドで遊ぶことで自然を感じたりといった、さまざまな体験ができました。またeco-reso boothで行われたミニトークでは、私たちに身近な話題をテーマに選ぶことで、誰でも気軽に楽しみながら話を聞くことができました。



ワークショップ一覧

【eco-reso booth / piha ワorkshop】

ワークショップ名	内容
「プレオーガニックコットンサシェを作ろう!」 kurkku・プレオーガニックコットンプログラム	ふわふわのオーガニックコットンを使ってサシェ(香り袋)を作りました。
「タンニンなめしのエコレザーで編むプレスレット」 株式会社ワイポ・genten	バッグを作る時に出る落ち草から、プレスレットなどの小物を作りました。
「ミツロウキャンドル作り&手作りコスメ」 ワイルドツリー	ミツロウ(=ミツバチが作り出すロウ)を使ってオリジナルキャンドルやリップクリームを作りました。
「古布を活かして作るう布ぞうり」 NPO法人 いやし処ほのぼの	地元掛川のおばあちゃんに教わりながら、古布でやわらかな履き心地のぞうりを作りました。
「ap bank fes '09 eco action」 ap bank fes '09事務局	ap bank fes '09の環境への取り組みの紹介。ステージの緑化も間近で見れました。太陽光電池づくりやハガキづくりのキッズワークショップや、葉っぱ形の紙にエコに関する決意を書いて1本の木にするワークショップも行われました。
「think farm ～ap bankと農業～」 ap bank	「農業」や「食べること」からつながる様々な取り組みや活動を紹介。出演者やスタッフの育てたミニトマトも展示されました。

【eco-reso booth / piha 日時限定ワークショップ】

ワークショップ名	内容
「粘土団子で地球緑化!～Rainmaker Project体験ワークショップ～」 NPO法人 横浜アートプロジェクト(ap bank融資先)	夏蒔きの野菜の種を数種類入れた粘土団子を作りました。(7/17(金) 14:00～15:30、7/18(土) 10:30～11:30)
「オーガニックコットン糸紡ぎ&コースター作り」 株式会社 チームオースリー/メイド・イン・アース(ap bank融資先)	ふわふわコットン糸から糸を紡いで手作りコースターを織りました。(7/17(金) 17:15～18:15)
「NO Vege NO Life ～農 vege 農 life～」 ベジタブル&シニアフルーツマイスター 藤井彰人さん	おいしい野菜の食べくらべ体験や、野菜の楽しみ方を学びました。(7/19(日) 10:45～、7/20(月・祝) 10:45～)

【puu ワorkshop】

ワークショップ名	内容
「キッズワークショップ ちびgoen」 森本千絵さん、goen、大塚いちおさん、京都goen	芝生をキャンパスに、ap bank fes '09のロゴになるワークショップ。トイカメラで撮った記念写真入り認定証がもらえました! トイカメラ提供:株式会社ゲットイット
「LOVE & COMMUNICATION ～親子でふれあいリラクゼーションマッサージ～」 LOVE & COMMUNICATION	親子や恋人、お友達同士でお互いにマッサージ。肌と肌を通じたコミュニケーションを行いました。
「つま恋自然観察会」 NACS-J自然観察指導員、財団法人 日本自然保護協会	つま恋の自然を楽しい解説とともに観察しました。身近なところにも自然を楽しむヒントがいっぱいありました。
「自転車発電ミニライブ」 Lovearth Camp	自転車を漕ぐことで発電し、音楽を聴けるという体験型ライブを行いました。19日(日)にはラップグループ「かっば」も登場しました!
「リラクゼーションイベント」 Relacle, Expanse..	風の通り抜ける心地よい丘の上でのリラクゼーションマッサージやヨガ体験を通じて、自分のからだを知ることができました。

スタッフコメント



ワークショップ出展 / 雑貨出店
「ミツロウキャンドル作り&手作りコスメ」
ワイルドツリー
平賀 裕子さん

ワイルドツリーは、人と自然、人と人のつながりを感じていただくことをテーマに「ミツロウ」を素材にした「キャンドル」と「リップクリーム」づくりのワークショップをひらきました。ミツロウに触れることで、もともと長いあいだ、くらしのなかにあった自然素材の気持ちよさを体験し、ミツバチー自然環境ー人のくらしがつながりあう、ゆったりとした時の流れや、そのことの豊かさ、愛おしさを実感していただけたのでは、と思います。毎年フェスに参加される方々との再会や、フェスが終わったあとも自分の感じたものを知り合いに「伝えたい」という方々からのメールに、ap bank fesが人と人、人と自然の共感の環をひろげていることを実感しています。

ミニトーク

オーガニックフードエリアpihaに位置するeco-reso boothでは、クリエイティブで持続可能な未来を考えるウェブマガジンを発信するgreenz.jpがホストとなり、毎日さまざまなゲストを招いてミニトークを開催しました。こじんまりとしたステージは客席との距離も近く、スピーカーと来場者が気軽にコミュニケーションをとることができました。環境問題に関する話はなにかと難しく考えてしまいがちですが、身近なテーマを題材にした、楽しく分かりやすいトークを展開しました。



【ミニトークゲスト一覧】

7月18日(土)	12:00～12:30… 枝廣淳子(環境ジャーナリスト) 14:40～15:10… ハセベケン(green bird代表) 17:10～17:40… 片山隆史(東邦レオ株式会社)・赤崎純子(グリーンソムリエ)
7月19日(日)	12:00～12:30… マエキタミヤコ(クリエイティブディレクター) 14:40～15:10… 田中優(環境活動家) 17:10～17:40… 藤井彰人(ベジタブルフルーツマイスター)
7月20日(月・祝)	12:00～12:30… 江守正多(気象学者) 14:40～15:10… 江良慶介(kurkku) 17:10～17:40… 鎌仲ひとみ(映画監督)・田中優(環境活動家)

キッズエリア puu

ap bank fesにキッズエリアpuu(プー)が初登場! 一日に約28,000人が来場する会場を、より快適で広々とした空間にし、これまでになかったイベントの楽しみ方を提案したいという思いから、エリアを拡張。初回よりライブエリアにファミリーブロックを設置しているap bank fesらしい、こどもから大人まで、みんなでくつろげる心地よいエリアとなりました。こども達にも、青空の下で遊ぶ楽しさ、ひいては自然環境の大切さを楽しみながら感じてもらえるように、自然素材でつくった遊具や、水遊びのできる池、風を感じられる旗の装飾、そして屋外で楽しめるワークショップなどを盛りこみました。家族で楽しめるこのエリアで、たくさんの笑顔に出会えました。



エコレゾプラス eco-reso+(plus)前夜祭

2009.7.17 fri

イベント開催中の3日間は、ライブやトークなどを思い切り楽しんでいると、あっという間に一日が過ぎてしまいます。ライブが行われる3日間とは別に、会場で行われている環境への取り組みや催しをゆっくり見ただけの時間を設けたいという思いから、08年より前夜祭「eco-reso+(plus)」を開催しています。前夜祭では、オーガニックフードエリアやキッズエリアなど、ライブエリアを除いたすべてのエリアがオープン。ライブだけではないap bank fesの見どころをじっくりと楽しんでいただけます。

今回は、地元掛川市の有機野菜の生産者のみなさんと来場者とが直接交流できる場として、ファーマーズマーケットを開催。トークショーも通常より長く90分のロングバージョンでお届けするなど、前夜祭限定の催しも行いました。

また、チケットをお持ちでない方も入場可能(※1)なため、地元の方にも気軽にお越しいただき、イベントの趣旨や取り組みをご理解いただけるよい機会となりました。残念ながらチケットが取れなかった方や、本番当日は主にライブを見る予定の方、環境活動に興味をお持ちの方など、約3,500人の方にご来場いただき、ap bank fes '09の雰囲気をご堪能ください。

※1 つま恋の入場料は必要。
詳しくは、P23をご覧ください



photo by GENTARO

エコレゾキャンプ eco-reso camp

自然のリズムを肌で感じながら過ごす一日を体験していただく場として、eco-reso campを開催しました。

参加者の一日は、朝、太陽が昇るとともにスタート。モーニングヨガで新鮮な空気をいっぱい吸い込み、ゆっくりからだを起こします。みんなが起きてきたら、元気に朝礼。そしてラジオ体操でライブに備えます。昼はワークショップを楽しむこともでき、夜にはキャンプサイトパーに集い語り合ったり、夜の自然観察会に参加したり、就寝前には星を観察したり。電化製品も使えないし、近くにコンビニもありません。多少の不便さを感じることもあるかもしれませんが、そんな不便さの中こそ見えるシンプルに暮らすことのよさや、自然に近い環境で一日を過ごすことの楽しさを実感していただくことができました。キャンプサイトには困ったことがあれば何でも相談できる熟練スタッフが常駐し、キャンプ初心者にも安心して楽しんでいただきました。ap bank fes '09では前回の2倍、およそ1,000人が参加しました。



スタッフコメント

eco-reso camp運営
滝沢 守生さん

eco-reso-camp 3年目の今年は天候にも恵まれ、とても気持ちの良い3日間を過ごすことができました。早朝のモーニングヨガに始まり、日中のワークショップやお楽しみ抽選会、夜の自然観察会やキャンプサイト・スペシャルライブなどなど、盛りだくさんなコンテンツにキャンプサイトからはいつも歓声が絶えませんでした。3日間という短い間でしたが、自分たちの手で TENT を張り、満天の星空の下、大地に眠る、といった根本的な生き物としての営みを通して、エコロジーという言葉の意味を少しでも実感していただけたら幸いです。いやあ、ホント楽しかったですね。来年もキャンプサイトで待ってます。

オフィシャルグッズ

さまざまなアーティストがBank Bandと共に作り上げて行くライブステージは、ap bank fesの見どころのひとつですが、オフィシャルグッズにおいても、ap bankの主旨に賛同いただいた豪華クリエイター達の競演を見ることが出来ます。ap bank fes '09の伝えたいメッセージをすてきなデザインで表現していただきました。また、原料や制作過程などにもこだわり、環境にやさしいものづくりに挑戦しています。台風の影響でたくさん余ってしまったTシャツをリサイクルコットンのキャップとして蘇らせたり、イベントで分別回収したペットボトルをリサイクルしてできるポリエステル繊維を使用してエコバッグを作ったりと、目的を持ってその時々に適した素材や方法を模索し、オフィシャルグッズに反映しています。08年にはオーガニックコットンのTシャツを販売しましたが、今回はオーガニックコットンをもっと広めるため、プレオーガニックコットンをTシャツやタオルの素材に採用しました。また、今回はマイカップやマイ食器の持参を推奨したことから、普段から使用していただけるマイボトルをオフィシャルグッズとして販売しました。

ap bank fes '09 オフィシャルTシャツ

8人の豪華クリエイターとコラボレーション! それぞれのクリエイターが ap bank fes '09にまつわるキーワードからインスピレーションを受け、デザインをしました。プレオーガニックコットン100%使用。



ap bank fes '09 オフィシャルマフラー・タオル

真夏のライブに欠かせないマフラー・タオルも、もちろんプレオーガニックコットン100%。



Design: 森本千絵

ap bank fes '09 オフィシャルバスタオル

風で揺れたプレオーガニックコットン100%のバスタオル。愛媛県今治市の100%風力発電でまかなっている工場で織り上げました。



Design: アシシア・ベイローレル

ap bank fes '09 オフィシャルキャップ

ジャージのような柔らかな素材に生まれ変わったリサイクルコットンを使用。(Color: ネイビー / アイボリー)



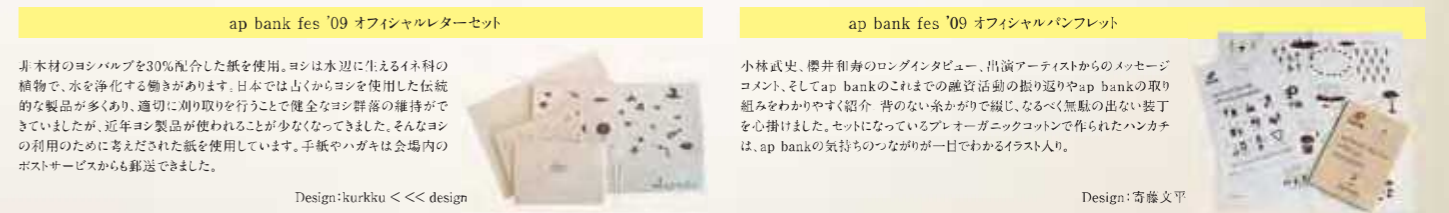
Design: 大日本タイポ組合

ap bank fes '09 × SIGG オフィシャルボトル

マイボトルとして毎日持ち歩いていただけるように、丈夫なSIGGボトルをap bank fes '09仕様でデザインしました。(Color: ホワイト / シルバー)



Design: kurkku <<< design



プレオーガニックコットンとは

ap bank fes '09 のオフィシャルTシャツ、タオル、パンフレットに付属のハンカチには、インドのマディヤ・プラデーシュ州で収穫されたプレオーガニックコットンを使用しています。農業被害に苦しみ、オーガニック(無農薬)農法に移行したいコットン農家がオーガニック認証を受けるまでの3年間の移行期間中は、収穫量が減るにもかかわらず買取り値が上がらないため、農家の負担が大きく、なかなかオーガニック農法の実施に踏み切れません。この移行期間に栽培された認証が付く前の無農薬コットン、すなわち「プレオーガニックコットン」を私たちが選んで消費することで、農業で苦しむコットン農家のオーガニック移行を後押しし、ひいてはインドのオーガニックコットンの普及を、そしてオーガニックな世の中への移行を支えることができます。



ステージ緑化

5回目となったap bank fes '09のステージには、ライブパフォーマンスに彩りを加える、ある仕掛けが施されました。ライブエリアに入ると、まっさきに目に飛び込んでくるのはステージに広がる鮮やかなグリーン。今回は、デザインや見た目でも何か新しく、ap bank fesらしいことを表現してみようとの想いから、壁面緑化技術を使ったステージの「緑化」にチャレンジしました。ステージという空間を生きた植物で装飾することによって、見た目の清涼感だけではなく、ステージに立つアーティストの暑さ対策や体力的な負担の緩和にも役立ちます。また、多くの観客が注目するステージを緑化することで、壁面緑化というのを知っていただくきっかけとなることを目指しました。

なお、これらの植物は、一旦もとの植物生産農場へ戻り十分にメンテナンスされた後、ふたたびさまざまな場所の壁面や屋上の緑化に使用されています。



ステージ緑化ができるまで

近年、温暖化対策として注目されている壁面緑化。省エネルギーやヒートアイランド現象の緩和、空気浄化、人への癒し効果など、さまざまな環境効果が期待されている技術です。

ステージを緑化するにあたっては、壁面緑化に携わる企業へのアプローチや緑化施設の見学などを通じてたくさんの方にお話を伺い、さまざまな可能性を検証しました。そのなかで、ap bank fes '09の取り組みに賛同し、今回のステージ緑化を実現するために協力して下さったのが東邦レオ株式会社。壁面緑化の専門家である東邦レオにとっても前例のなかったステージの緑化に、一緒にチャレンジしました。

制作の過程では、ステージに必要な機能を維持しながら植物と共存するステージを実現するためには、どのくらいの規模でどのような段取りが必要になるのか、何度も打合せを重ねました。そして、日中の暑さによる植物の傷みを避けるために運搬を夜にするなど、準備から施工、イベント期間中、撤収に至るまで、炎天下の野外ステージや限られた時間という過酷な環境のなかで植物をきちんと管理することに細心の注意を払い、ひとつひとつ段取りが組まれていきました。こうして作り上げられたのが、ap bank fes '09のステージ緑化です。

さらに、米場者やアーティストのみなさんにもっと身近に壁面緑化を感じてもらうために、ステージだけではなくアーティストの楽屋エリアやオーガニックフードエリアのトークステージ、ワークショップが行われるeco-reso boothでも、一部壁面緑化を採用しました。

ap bank fes '09で採用されたステージ緑化の仕組み

ap bank fes '09のステージ緑化には、「グリーン・ファサードピクセル」という新技術が活用されました。利用可能な植物の豊富さと施工の容易性が特徴で、短期間のうちにステージを植物で装飾できる技術です。15cm四方の小さなマス目でできている「ピクセルポット」を壁面のピクセルフレームに設置して緑の壁を作ります。フレームの裏に組み込んだ自動の散水システムによって植物への水やりが行われ、イベント期間中もしっかりと植物を管理。生き生きとした緑の壁がステージを彩りました。



スタッフコメント



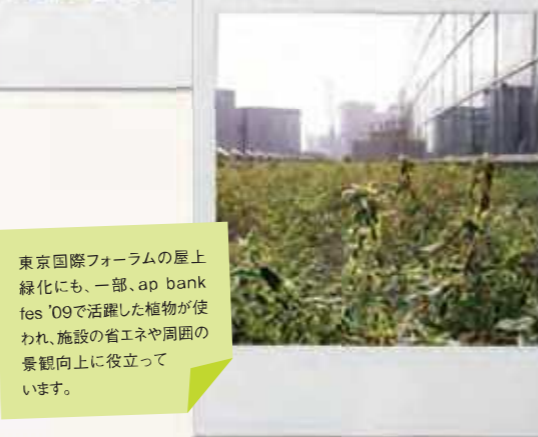
ステージ緑化協力
東邦レオ株式会社
片山 隆史さん

今回のステージ緑化は10種類、2088株の植物を組み合わせて作っています。その植物はというと、明るさや水の要求量が違い、さらに今回は設置時期がいかなり真夏日というロケーション。枯れてもおかしくない環境です。事前にfes '08のDVDを毎晩何度も見返し、3回のモックアップ製作を経て植物を選び、段階的に日射しになしたり、温度の影響を受けない夜間に運搬するなど「必ず成功させる」という気持ちで出来ることは全てやりました。ステージ上でつま恋の風と音楽の中でたなびく緑はとても気持ちよさそうでスタッフ全員、感無量でした。

ステージ上のグリーンを見る観客との距離や、気温・日照条件・風景といった設置環境を考慮し、使用される植物が選ばれ、ライブステージの両端には高さ約9mの緑化タワー、ステージ奥には約2mの緑化の壁が11枚、彩りを添えました。



フレームの決められた場所にどの植物を植えるのかを予め決定し、1つ1つナンバリング。現場の短い施工時間のなかで、素早くかつ丁寧に設置作業が進められました。



東京国際フォーラムの屋上緑化にも、一部、ap bank fes '09で活躍した植物が使われ、施設の省エネや周囲の景観向上に役立っています。

エネルギー

ap bank fes '09の会場は、1日に約2万8000人を動員するライブエリアと、オーガニックフードエリア、今年新登場のキッズエリア、そしてキャンプエリアから成り立っています。このような大規模な会場で行われるイベントを運営するためには、たくさんの電力(エネルギー)が必要になります。

ap bank fesでは、初回より、イベントで使用するエネルギーには環境に優しいものを選ぶことで、できるだけ環境負荷の少ないイベント作りに取り組んできました。燃焼時にCO₂を排出する石油、石炭、天然ガスなどの化石燃料ではなく代替燃料や再生可能エネルギーを採用したり、新しい技術を導入することで、イベントにかかるエネルギー負担をできるだけ軽減することにチャレンジしています。

グリーン電力

ライブエリアでは、3日間でおよそ12,000kWhの電力が使われました。この電力を、グリーン電力証書システムを使い、静岡市内の風力発電施設「風電君」で発電された電力でまかないました。風力や太陽光、水力、バイオマスなどの自然エネルギーによって発電された電力は、電力そのものの価値に加えて省エネルギーやCO₂排出量削減などの環境付加価値を持ちます。この



環境付加価値分をグリーン電力証書として証書化し、取引を可能にしたものがグリーン電力システム。使用電力量を予め(もしくは、事後)算出し、その分の電力をグリーン電力証書として購入することにより、グリーン電力を間接的に購入することが可能になります。会場となったヤマハリゾート「つま恋」を所有するヤマハ株式会社では、ap bank fesの開催をきっかけに2007年から日本自然エネルギー株式会社を通じてグリーン電力証書システムを導入し、開催される音楽イベントや音楽施設にグリーン電力を活用しています。これにより、つま恋では年間50万kWh、約230トンのCO₂削減効果が見込まれます。

バイオディーゼル燃料

オーガニックフードエリアやキッズエリア、そしてキャンプサイトで使用する発電機の燃料には、軽油の代わりにバイオディーゼル燃料(BDF=Bio Diesel Fuel)を使用しています。ap bank fes '09ではおよそ7,600ℓのBDFを使用しました。

BDFとは、菜種油・大豆油・コーン油などの植物由来の油から作られた代替燃料です。化石燃料から作られる石油などの燃料は燃焼する際にCO₂を排出しますが、BDFは原料となる植物が成長過程の光合成によって大気中のCO₂を吸収しているため、燃焼させてもともと地球上に存在した以上のCO₂は発生しないと考えられています。(この考え方を「カーボンニュートラル」と言います。)

その一方で、本来食用であるトウモロコシやサトウキビなどが燃料として消費されることによって、一部では食糧としての穀物の供給不足や森林破壊を引き起こしていることも事実です。しかし、それと同時に、てんぷら油などの廃食油を回収しリサイクルして作り出すものも実用化されており、ごみとして捨ててしまうはずのものから新たなエネルギーを創り出す取り組みも進んでいます。

そのような背景を考慮し、ap bank fes '09で使用するBDFは、てんぷら油などの廃食油を回収しリサイクルして作られたものを選びました。さらに、今回、会場内の飲食店から出た廃食油も捨てずに回収し、BDFを提供して下さった株式会社セベックによってバイオディーゼル燃料にリサイクルされました。



LED照明

今年のライブステージには、電力消費を画期的に抑えることができるLED(*1)照明を採用しました。これにより、使用電力を昨年の2/3にまで大幅に削減することができました。また、放熱が少ないことで夏の野外イベントステージに立つアーティストの負担を軽減することにも繋がりました。

*1 LED…発光ダイオード。電気を流すと発光する半導体。従来の光源に比べて寿命は長く、消費電力も小さいため、次世代の光源としてその活用が期待されています。



【揮発油等の品質の確保等に関する法律】

近年、日本でもバイオディーゼル燃料の需要が増えてきました。環境に負荷をかけない代替エネルギーとして注目される反面、現在市場に流通しているディーゼル自動車にバイオディーゼル混合軽油を使用した場合、フィルターの目詰まりやゴム・樹脂が劣化しやすいなど自動車の故障の原因になりえる点があることや不適切に混和された燃料による大気汚染の問題が懸念されています。こうした自動車の安全性や、排ガスによる人体及び環境への影響などの観点から、平成20年の法改正(平成21年2月25日施行)がなされ、バイオディーゼル燃料は軽油に混合できる上限が質量の5%までと定められました。そのほか、加工業者の登録制度や品質確認義務等が新たに定められ、一定の品質や安全が確保された燃料の普及への基盤が整いつつあります。

収支報告

ap bank fes '09 収支報告 (2010年2月末現在)

(単位:円/消費税込)

チケット収入	¥9,000/1日券	7月18日(土):26,605枚/19日(日):26,723枚/20日(月):26,769枚	¥720,873,000
	¥14,000/1日券+エコレゾキャンプ券	7月18日(土):509枚/19日(日):354枚/20日(月):284枚	¥16,058,000
	¥27,000 3日券	3日券:377枚	¥10,179,000
	¥32,000/3日券+エコレゾキャンプ券	3日券:566枚	¥18,112,000
	¥4,000/1日券 駐車券	7月17日(金):47枚/7月18日(土):1,450枚/19日(日):2,565枚 20日(月):2,659枚	¥26,884,000
	¥10,000/4日券 駐車券	4日券:250枚	¥2,500,000
	¥4,500/1日券(当日) 駐車券	7月18日(土):61枚 19日(日):26枚 20日(月):36枚	¥553,500
その他収入	物販	オフィシャルグッズ(12月28日までの通信販売含む)	¥137,812,616
	フードエリア収入	フードエリア出店料、販売ロイヤリティなど	¥35,683,041
	協力金	賛同企業 (株式会社ローソンチケット、麒麟ビール株式会社、佐川急便株式会社、サントリー、JR東海) ※50音順	¥19,435,985
収入合計			¥988,091,142

イベント制作費	ライブエリア	ステージセット、舞台監督、大道具、音響、照明、映像、特効、運搬など	¥191,454,931
		楽器テクニシャン人件費、楽器レンタル費、調律など	¥14,826,228
	フードエリア	テント、看板、運搬、音響、照明費など	¥80,562,960
		出店管理経費、ワークショップ制作費、エコレゾキャンプ運営費など	¥24,232,551
環境対策費	ごみ対策費、エネルギー対策費、トイレ管理費など	¥14,791,826	
現地制作費	会場費、会場設営費(プレハブ・仮設トイレ・看板など)、舞台設営費、会場外設営費、人件費など		¥92,429,741
	移動費、車両費、シャトルバス代、駐車場使用料など		¥58,884,084
	食事代、ケータリング代など		¥21,611,872
	アルバイト・警備員費など		¥79,212,154
	著作権使用料、運営雑費、花火、制作協力費など		¥16,742,511
出演アーティスト経費	出演者・ヘアメイク・スタイリストのギャランティー・交通費など		¥34,290,318
移動宿泊費	宿泊(出演者・スタッフ・ボランティア・関係者など)		¥44,223,742
	移動(スタッフ・ボランティア・関係者のレンタカー・市内移動費など)		¥5,089,743
イベント運営費	チケット販売手数料、チケットバンド・STAFF Tシャツ制作費など		¥35,392,043
	中止保険、リハーサルスタジオ代		¥32,500,000
	制作物広報費(オフィシャルサイト制作費、ラジオ番組制作費、オフィシャルカメラマン撮影費など)		¥18,564,793
	諸経費(消耗品費、雑費など)		¥6,526,724
支出合計			¥771,336,221

収 支	¥216,754,921
------------	---------------------

※賛同企業とは、ap bank fes '09の趣旨に賛同いただき、イベント制作にご協力いただいた企業です。

※企画・制作を担当した鳥籠舎スタッフ分の経費については、移動交通費・宿泊費等、実費のみを経費計上しております。

※上記収益は、ap bankの活動資金、環境をはじめとするさまざまなプロジェクトの支援や推進のために充当されます。

公演実施概要

公演名	ap bank fes '09(エービーバンク・フェス・ゼロキュー)	
日 程	2009年7月18日(土)、19日(日)、20日(月・祝)	
会 場	ヤマハリゾート つま恋 〒436-0011 静岡県掛川市溝水2000番地	
場 所	つま恋敷地内 ライブエリア:多目的広場/オーガニックフードエリア:グリーンスポーツ広場、第2多目的広場/その他	
時 間	開 園(つま恋南ゲート)	08:00
	開 場(ライブエリア/オーガニックフードエリア)	09:00
	開 演	13:00
	終 演	19:00
	閉 場(ライブエリア/オーガニックフードエリア)	21:00
	閉 園(つま恋南ゲート)	22:00

	7月18日(土)	7月19日(日)	7月20日(月・祝)
出演アーティスト (出演順)	中村 中 GAKU-MC My Little Lover 福原 美穂 大塚 愛 ボルノグラフィティ 甲斐よしひろ トータス松本	Bank Band with Great Artists	
		伊藤由奈 GAKU-MC KREVA Salyu スガ シカオ 今井美樹 石井竜也 and Mr.Children	GAKU-MC いぎものがかり キマグレン JUJU 秦 基博 一青窈 倅田来未 矢沢永吉(シークレット)

チケッ	3日券(ブロック指定)	各 ¥27,000(税込)	立ち見ゾーン/ゆったりゾーン/ファミリー券(ファミリーゾーン)
	1日券(ブロック指定)	各 ¥9,000(税込)	立ち見ゾーン/ゆったりゾーン/ファミリー券(ファミリーゾーン)
	エコレゾキャンプ券	各 ¥5,000(税込)	エコレゾキャンプ券/エコレゾキャンプファミリー券

前夜祭 eco-reso+(plus)	開催日時	7月17日(金)13:00 開場~21:00 閉場
	料 金	入場無料(ただし、つま恋の入園料については下記のとおり) *7月18、19、20日のいずれかのap bank fes '09チケット(3日券を含む)の提示でつま恋の入園無料 *ap bank fes '09チケットをお持ちでない方は、つま恋入園料(大人1,000円、小人500円、幼児無料)が必要 *つま恋は17:00以降は入園無料
オーガニックフードエリアkoti、piha、koti market、キッズエリアpuuのみオープン		

eco-reso camp	開催期間	7月17日(金)13:00~7月20日(月・祝)14:00(最終日 20日の終演後の宿泊はなし)
	場 所	つま恋敷地内 ゴルフショートコース
	料 金	上記「チケット」参照

動員数	本番日:約84,000人(各日 約28,000人 × 3日間)
	前夜祭:約3,500人

主 催	ap bank
-----	---------

企画・制作	ap bank/00RONG-SHA
-------	--------------------

賛 同 (50音順)	エンタメベスト/株式会社エフエム東京(TOKYO FM) 株式会社エフエムナックファイブ(FM NACK5)/株式会社FM802 株式会社ZIP-FM/株式会社バシフィックネット/株式会社ハドソン/株式会社ベイエフエム(bayfm)/株式会社ローソン 株式会社ローソンチケット/麒麟ビール株式会社/K-MIX 静岡エフエム放送/コンサベーション・アライアンス・ジャパン/佐川急便株式会社 THE NORTH FACE/サントリー/JR東海/静岡新聞/静岡放送(SBS)/大日本印刷株式会社/TOWER RECORDS 東邦レオ株式会社/パタゴニア/ヤマハ株式会社
---------------	---

環境対策協力 (50音順)	A SEED JAPAN/市栄産業株式会社/遠州鉄道株式会社/株式会社市川商店/株式会社エコネコル/株式会社エンヴァイロテック 株式会社グリーンシンク/株式会社セベック/ 帝人株式会社/日本トイレ研究所/ ヤマカ株式会社/ 有限会社ひがしぐるま/レコテック株式会社
------------------	---

協 力	掛川市/つま恋
-----	---------

運 営	SUNDAY FOLK PROMOTION
-----	-----------------------

おわりに

5回目のap bank fesが終わりました。

今回は、「原点回帰」という言葉がひとつのキーワードとなりました。

しかし、それは単に初心に戻るという意味ではなくて、

環境問題を今一度検証してみる、私たちが生活している今を知る、

または未来の選択の仕方、それぞれの可能性を、もう一度色々な意味で「たずねる」ところから始めること。

そう解釈し、私たちスタッフはap bank fes '09に携わりました。

そういった気持ちをイベント制作の流れに組み込むことによって、

たくさんの新しい出会いや仕掛けが生まれました

不思議なことですが、「原点回帰」によってこのイベントは更なる広がりを持ったのです。

「今を知ろうとすること」と「未来を考えること」、その答えは常に変化し続けるからです。

この環境報告書ではイベントの実績や、それに伴う環境への取り組みにまつわる報告だけでなく、収支をガラス張りにし、

それがap bankの、環境をはじめとするさまざまなプロジェクトを支援、推進する活動の原資へとなる「繋がり」も報告してきました。

しかしap bankがap bankである以上、その役割や方法、そしてap bank自体も、新たな取り組みを加えながら今後も変化を続けていこう。

そのとき、ふさわしい形でap bank fesが皆さんと集う場であればと思っています。

ap bank fes '09とこの環境報告書が、未来へのプロセスや何かのきっかけとして、皆さんに届くことを願います。

2010年1月

ap bank fes '09事務局

ap bank fes '09 環境報告書制作

制作
ap bank

アートディレクション/デザイン
貞根井 靖嘉 (ROOP design)

デザイン

市川 大祐 (ONEorZERO design centre)

イラスト
佐々木 恵子